

5 提言 胃癌予防

間部克裕

国立病院機構函館病院消化器科 部長

年間の胃癌による死亡者数は最近では約45,000人まで減少しましたが、胃癌の原因はほとんどが*H. pylori*感染を原因とするものであり、*H. pylori*を除菌すれば予防できることがわかっている。そのため、施策として社会で取り組まなければならない時代といえる。正確な情報を発信して普及させていくことがわれわれ専門家に求められる役割となっている。

今回のガイドラインにおいて胃癌予防は提言として発表された。総論には、*H. pylori*の感染時期は幼少期であり、家族内感染が主であること、わが国では年を追うごとに感染率が低下していること、わが国の胃癌は分化型・未分化型にかかわらずほとんどが*H. pylori*を原因とするものであること、*H. pylori*感染の有無、萎縮の程度で胃癌リスクが大きく異なること、早期に*H. pylori*感染検査を受けることが望ましいことが記載されている。

わが国における感染時期は5歳ごろまでであるといわれているため、*H. pylori*陽性の中学生でも感染してから10年程度が経過していることになる。世代別の*H. pylori*感染率は40歳代以下であれば20%以下と非常に低くなっている。*H. pylori*感染は20年以上前に疫学研究の結果から国際がん研究機関(International Agency for Research on Cancer : IARC)が胃癌の発癌因子として規定しており、その後コホの原則に従うことが動物実験で示され、ヒトにおける前向きコホート研究でも確認されたことで、科学的に胃癌の原因であることが証明された。わが国の胃癌のうち*H. pylori*が関係していないものは1%未満であったことが示されており、内視鏡でみた胃の萎縮やレントゲンでみた萎縮性胃炎の有無、肥厚性胃炎の有

無で明確に胃癌リスクが異なるということが証明されている。

胃癌対策として除菌による一次予防に加え、除菌後の内視鏡検査などの継続による二次予防が必要である。除菌による胃癌予防効果については動物実験で認められ、ヒトにおいてもJAPAN GAST Study Group (JGSG)による早期胃癌内視鏡的粘膜切除術(endoscopic mucosal resection : EMR)後のランダム化比較試験(randomized controlled trial : RCT)によって世界で初めて証明された。韓国のほぼ同様のRCTでは有意差が示されなかったが、これはJGSG研究と異なり胃癌発見直後にランダム化された症例が対象であったことが要因と考えられている。メタ解析、RCTともに*H. pylori*除菌による胃癌予防効果は科学的に証明されている。

問題は、除菌後であっても背景粘膜に応じた除菌後の二次胃癌、あるいは発癌があることである。胃炎が一定程度進行してからの除菌であれば除菌後の内視鏡検査などで二次予防する必要がある。

提言は青少年期、胃癌リスクが低い時期、胃癌リスクが高い時期の3期に区分している。スクリーニング検査は中学生以降で可能である。早期の検査・除菌治療が望ましいが、小児への除菌は保険適用外である。青少年期における除菌治療は次世代への感染対策としても有効である¹⁾。小児への除菌は、本人および保護者の希望・同意を確認したうえで実施することが必要である。

40歳代以下の若年者胃癌死亡者数は、現在年間1,000人台となっている。青少年期対策として、尿中抗体検査などでスクリーニング検査をし、陽性者に対して尿素呼吸気試験などで感染を確認して除菌治療を行うことは、内視鏡検査を行わないため本人の身体的な負担や、本人および行政にとっての費用負担も少ない方法であり、最も確実な一次予防である。

胃癌リスクが低い時期、高い時期は50歳未満、50歳以上で区別した。50歳で区切った理由は癌検診の対象が50歳以上となっていることを考慮してのことである。当院で実施した自費による尿中検査で40~50歳代を中心に陽性者にはほぼ全例内視鏡検査を実施しているが、そのうち3%弱に胃癌が発見されている。検診年齢以前の若い世代の方は病院に訪れることも少なく、検診も受けていないため会社や学校での検査など何らかの形で*H. pylori*検査を提供していくことが必

PROFILE



Katsuhiko Mabe

まべ・かつひろ ● 1995年3月山形大学医学部卒業、1999年3月山形大学大学院卒業医学博士課程修了。1999年4月公立学校共済組合東北中央病院消化器内科医師、2000年4月山形県立中央病院内科(消化器)医、2003年4月山形県立中央病院内科医長、2004年4月山形県立中央病院医療情報部副部長、2008年4月KKR札幌医療センター消化器科医長、2009年4月北海道大学第3内科臨床講師(兼任)、2010年9月北海道大学病院第3内科助教、2012年2月北海道大学病院光学医療診療部助教、2014年8月北海道大学大学院医学研究科がん予防内科特任講師。2016年より現職。